

21世紀山形県民会議

実行、挑戦する人材育成



山中大介氏



山形、庄内で必要なものを全てやりたい。地域主導のまちづくりを進める上のターゲットは地域だ。

戦略、アイデア

一学級の充実や郷土愛の醸成、チャレンジなど多くのキーワードがあった。これまでの論点を踏まえ、若者の定着・帰郷の促進に向けた戦略やアイデアを聞きたい。

吉村 過疎地域ながら人口が社会増となっている町村があり、県内では山辺、大石田、鮎川、遊佐など13町村で社会増となっている。要因は住まいと就労、子育ての支援に一体的に取り組んでいる点だ。今後市町村と連携し、県産米の提供など本県ならではの「食」の支援も組み合わせ、

移住と定住を促進する施策を展開する。本県には豊かな自然、高い精神性を有する文化、ものづくりや農業の技など国内外に誇れる魅力がある。高速交通網など社会インフラの整備に力を入れ、先人から受け継いだ山形の魅力を再認識し、磨き上げ、新しい芽を育てていくことも重要になる。若者が自信と誇りを持ち、力を発揮し、活躍できる社会を実現していく。

内容 自分で仕事をつくる、チャレンジできる環境が山形にはあるという話が皆さから出たが、私たちが進め

る教育と子育ての施策は、突き詰めて言うと、そういう人材を育てることが目的だと思ってる。研究者や関係機関と連携して地方創生に取り組み、具体的には、子どもだけでなく保護者の成長にもつながる「読み聞かせ」などを行っている。また今年、市ものづくり人材育成推進協議会を組織した。長井は企業の城下町として発展してきたが、地元の産業界を支えてきた長井工業高の募集人数が定員に満たないなど、危機感を持ってものづくりの担い手を育てなければならぬからだ。チャレンジする、起業する人材

高校の多様化、小中一貫校と
いったように、地域の特性に
応じた教育の形をつくること
を考えていく必要がある。

遠藤利明氏



高速交通網などの社会基盤整備、中心市街地の活性化、独自のまちづくりなど多様な意見が出された
―東京・日本プレスセンタービル

黒田三佳氏



ここにあるものにどう価値付けするか。物まねでなく、山形に合った、すてきな暮らしをつくり出すことが大切だ。

の育成につなげたい。

然に増えるのではないかと。

清野 地元の祭りやイベントを守る、インバウンド(海外からの旅行)を含めた流入人口を増やすという2点が重要。県内各地の祭りやイベントは、子どもたちの古里への愛着を育てることにつながる。インバウンドに関しては山形市と台湾・台南市で友好交流促進に関する協定を結び、今後は少年野球団の交換も検討されている。県内の外国人観光客の多くは台湾からで、ネットワークを強くしつつ他の国・地域のインバウンド拡大にも力を入れたい。交流人口拡大には交通インフラの整備が不可欠だが、本県は不十分。社会資本の整備で企業を誘致し交流人口が拡大すれば、若い世代に古里への希望が生まれる。これが住みやすくなるまちづくりの一つの要因だ。

山中 今回の議論で出たキーワードは全て正解だと思える。次は実行すること。それも最高のクオリティで実現させることだ。リスクを負って挑戦することが大事であり、そこが地域に欠けていると思う。サイエンスパークだけ開発するのであれば優秀な人材は集まらない。山形、庄内が必要なもの全てをやりたい。地域主導のまちづくりを進める上でのターゲットは地域だ。自分たちが手掛ける「シヨウナイ・ホテル・スイテン・テラス」は当初、「田んぼホテル」と名付けようと考えた。地元の人にそう呼んでほしいと思ったから。自分たちが取り組むまちづくりを地元の人にも面白がってほしい。それができれば交流人口は自然に増えるのではないかと。

遠藤 高校はもっと特徴をつくるべきだ。林業コースなどもいいし、観光科があってもいい。これだけ台湾や中国から多くの人が来ているのだから、観光科では英語だけでなく、中国語や韓国語も教えるべきだ。こうした高校の多様化に加え、小中一貫校といったように、地域の特性に応じた教育の形をつくることを考えていく必要がある。国にはスポーツ、文化、交流の拠点として、学校を位置付けることも提案している。2020年東京五輪・パラリンピックで世界の国々と地域が結ばれる。山形県は全国で一番、各国の選手らと地元住民が交流するホストタウンの登録数が多い。交流を通じて往来ができるような関係づくりを進めてほしい。